令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 湖北中学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○漢字・語句などの基礎的な知識はある。 ○言葉を用いた遊びや表現活動(俳句・川柳など)に対して、興味や関心がある。	・根拠を明確にした文章を書く機会を増やしたり(各授業)、根拠を明確にした説明の場面を作ったりする。(道徳・学活・各授業) ・きちんとした言葉で用件を伝えることができるよう指導する。(学校生活全体・全教職員)
	課題	●知識や能力があっても、どのように用いていいかわかっていない。 ●日頃から要件を単語レベルの短い言葉で伝えている。 ●発言の意図を読み取る問題の正答率が低い。	
数学	成果	○計算などの基礎的な知識・技能が身に付いている。	・基礎的な力をつける学習は継続する。 ・長文を読んで理解する力を付ける。 (数学・国語・学活など)
	課題	●記述問題の無解答率が高い。解けないと判断したらすぐあきらめる。 ●長い文章を読んで解く問題や、連続している問題(前の解答を用いて答える問題)が苦手である。	
英語(成果または課題で話すことについて触れること)	成果	○未来形など、基礎的な知識を用いた単純な解答ができる。 ○授業で繰り返し用いられた話題に対して、スムーズに話したり書いたりすることができる。 ○与えられた情報から必要な情報を抜き出すことはできている。	・小テストなど、基礎知識の定着や正確な活用を図る学習を継続して行う。 ・生徒の身近にある様々な場面・状況を設定し、授業で対話・英作文などを実践する。 ・「相手意識」の視点を育てるため、Iではなくweを用いた表現などが見に付けられるようにする。
	課題	●「まとまりのある内容」を話すことが困難である。また、経験値が少ない体験に関して「まとまりのある内容」を話したり書いたりすることも難しい。 ●2つ以上の条件を同時に処理し、適切な解答をすることが苦手である。	

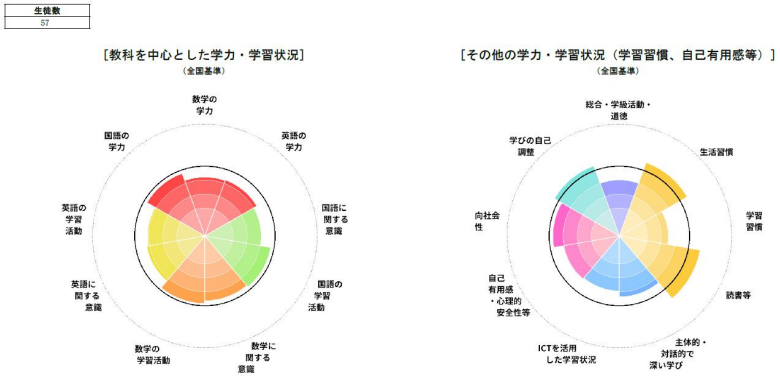
(2)質問紙調査から見られた傾向

		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○将来の夢や目標がある。また、地域や社会をよくするために何かしたいという意欲をもっている生徒が多い。 ○課題の解決に向けて意欲的に取り組む生徒の割合が高い。	・考えをアウトプットする力を付けるために、ペアワークや班での話合い活動の機会を増やす。 ・保護者と連携し、家庭でも落ち着いて学習に取り組むことができるようにする。
	課題	●家庭でのSNSや動画視聴に費やす時間が長い。 ●家庭学習を1時間以上している生徒の割合が、全国・県平均を大きく下回っている。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

学校全体	○根拠を明確にした文章を書いたり、気持ちを伝えたりする機会を増やす。 ・スリンプルプログラムの活用(例:行事のあとに「いいとこ四面鏡」で、理由を添えてお互いを褒める機会をもつ、など) ・条件をつけた日直スピーチ(「4文以上で」「理由を必ず添えて」など)

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

57 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

